様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年３月３１日現在

機関番号：１２２０１
研究種目：基盤研究（C）（一般）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０７９８
研究課題名（和文）　地域プロジェクトと連携した大学美術教育カリキュラムの研究

研究課題名（英文）　The study of the curriculum linked with a local project for the university education of art.

研究代表者
日原 公大(HIHARA KODAI)
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：１０１３４２５６

研究成果の概要（和文）：　対話型美術鑑賞授業を充実させるために、大田原市街かど美術館展覧会を用い学生に鑑賞ツール研究を課題とした。画家、彫刻家についての研究（中学生に対し作品内容の伝達方法の研究、および表現内容の研究等）をした。その結果、自からの学びの重要性を学生自身が体感し自己の学びにフィードバックさせ、学力向上が確認できた。

研究成果の概要（英文）：To expand the interactive class of appreciation of art on the exhibition the students were given an assignment: to study the tools for appreciation.
They carried out their study in the painters and sculptors (their way of content transmission technique.)They not iced the importance of learning on their own and made feedback of the experience to their creation. It was confirmed the students improved their scholastic ability.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2008 年度 | ２，０００，０００ | ６００，０００ | ２，６００，０００ |
| 2009 年度 | ８００，０００ | ２４０，０００ | １、０４０，０００ |
| 2010 年度 | ６００，０００ | １８０，０００ | ７８０，０００ |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | ３，４００，０００ | １，０２０，０００ | ４，４２０，０００ |

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学：教科教育学
キーワード：教育学、芸術諸学

１．研究開始当初の背景
教員養成大学での美術の専門科目群の充実と拡充のために、地域プロジェクトと連携をしている。大田原市街かど美術館は 1988 年地域活性を目的とした「ふるさと創生事業」を契機に「水と緑と芸術のある町」をスローガンに掲げ市民、子供に本物の芸術に触れる機会を作ろうと 1993 年、行政と市民、大学が連携をして始まった。美術館と言う名称であるが箱物としての実体は無く町全体を使った展覧会形式をとっている。毎年 1 回開催をして 20 回目を迎えるこの展覧会は街中の 4 会場を中心に会場をつなぐ商店街店先に美術作品を展示するという形式である。街かど美術館は、協賛者や大学、市民ボランティアによって運営委員会が組織され、サポートに市（文化振興課）が関わり運営されている。また、後援として市教育委員会や文化協会、観光協会、商工会議所など様々な団体が参加している。展示形式は毎回 4 人の作家（画家 3 名、彫刻家 1 名）が招待され、個展形式で街中にある画廊、郵便局、結婚式場のラウンジ、ボランティア施設など使い展示を行う。いずれの施設も高さ幅ともに 2 メートルの大

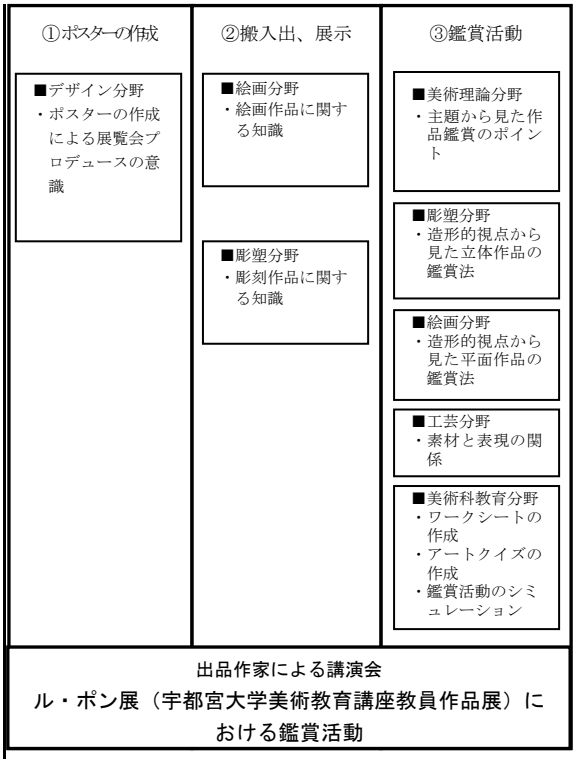
作を展示できる広さがある。前述をしたメイン会場を結ぶ商店ショーウインドーには小品を並べ、ストリート・ギャラリーと呼び鑑賞者はメイン会場に歩いて移動しながら作品鑑賞と街中散歩を楽しむことが出来る。昨今は各地で開催されているが継続して開催されている先駆的な存在と言える。教育学部美術教育の教員、学生は設立当初から企画・運営を手伝っておりその体制は近年整ってきた。

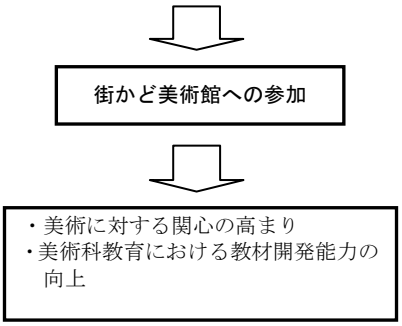
２．研究の目的

教員養成大学での美術の専門科目の学習に、地域プロジェクトと連携した内容を取り入れて学生が自ら学びを省察し真正な学びへ進化させる為の課題を検討し、新たなカリキュラムを構想、実践検証をする。具体的には大田原市で毎年開かれる美術展覧会を使い、中学校の対話型美術鑑賞授業を充実させるための鑑賞ツールなどを考え、自らの学びの重要性を学生自身が体感して自らにフイードバックさせ、学力向上を図る。

３．研究の方法

大田原市街かど美術館に適した共同参画をする為にそれぞれの教科で実践研究(招聘作家作品を通した絵画、彫刻研究、中学校の対話型美術鑑賞授業を充実させる為の鑑賞ツールの作成、ポスター・インビテーションカード制作、展示方法研究、制作研究の充実)を進めた。大学生全員が参加出来る様、授業での関連を深めた。地元大田原中学校の生徒との鑑賞活動を骨格としている。作家が待つ会場に大学生が中学生と共に会場を巡りコミュニケーションを通して中学生の理解を深め鑑賞の補助をするものである。




学校教育における美術科の授業において鑑賞は利便性からテキストを利用することが多い。さらに、新中学校学習指導要領美術の「指導計画の作成と内容の取り扱い」においても（中略）美術館・博物館などの施設や文化財などを積極的に活用すること」とあり実物の作品鑑賞の重要性について触れている。残念ながら大田原市は美術館がない。その上、製作者がいる対話型鑑賞の機会は美術教育の観点から貴重であると言える。参加する中学生は美術部の部員であり、例年 40 名程度である。4 つの班に分けられ地元ボランティアの誘導に従い各班の大学生、中学生は経路を別にして 4 会場を回る。大学生は各班に 2, 3 名付き添い、鑑賞の補助、ワークシート記入のヒントなどを与えながら鑑賞をする。この様なウォークラリー方式で行われ会場で待つ作品とその作者に出会い理解を深くする。ワークシートは 10 年前から、中学生がより楽しく作品を鑑賞できるように、（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術教育）授業の中で出品作家の作品を分析研究して大学生が個別に作成をして中学生の関心が高まるよ

う、様々の体験、実感が出来る様に工夫されて創られた。アートクイズは第 18 回から導入した。鑑賞活動最後に４班対抗の形式で、展示作品に関する内容の問題を出題し、それにより鑑賞の振り返りと見逃した内容にも着目をさせて再び作品に感心を向けさせる意図を持っている。以上のような活動を大学生が主体的に行う上で重要になるのが１点目は鑑賞能力の向上、２点目は展示作家の制作に関する予備知識の教授である。１点目は普段の授業の中で行い、２点目については事前に大学において講演会を開催して研究の場を設けている。前述したよう授業の中に関連する内容を盛り込むことで、展覧会運営や鑑賞活動などの実践的な面での意識を持つように心掛けている。具体的協力事項は　①作家研究　②ポスター類の作成　③搬出入・展示　④中学生との対話型鑑賞授業であり大学の授業に組み込んでいる。その分野は①は出品作に関する調査研究を絵画、彫塑分野の授業の中で行う。（大学生の支援能力の向上を目的として、出品作家の講演、大学教員作品展でのギャラリートークを開催）　②はデザイン分野の授業の中で全員にポスター制作を義務付けている。③は工芸分野を含む実技授業の中で行う。④は美術教育分野が中心となり各分野と協力して鑑賞に必要な知識の教授、作品鑑賞におけるワークシートやアートクイズの作成を行う。これらの指導体制の下、１年生から３年生で学年ごとに連携内容を分担し、カリキュラムで学んだことを実践応用できるように配慮している。カリキュラムの中で学んだ内容を実践、考察できる場として街かど美術館と協力している。そしてこれらの経験を踏まえ、美術や美術教育に関する感心能力を向上させ４年生での卒業研究に向けた基盤つくりと繋げていける様に支援している。

①作家研究は出品作家の資料集めから始まり考察そして作家講演会で纏め上げる。講演会は２月中旬に開催し作家の都合により１日から２日大学構内で美術教育学生を対象に開催される。内容は制作上の考え、姿勢、表現技法などであり終了後質疑応答がかわされて学生各自の考え、作品に関する理解の深化を促した。最後に用意されたシートに講演内容感想をまとめ、中学生用鑑賞ワークシート作成をする際の資料とした。

【会場風景】

【教員ル・ポン展会場】

②ポスター類制作はデザイン２年授業で制作され、年度末に１年間の集大成として完成される。１人１点デザイン案を作成し、美術館運営委員で構成される市民選考委員が審査をするコンペティシオン方式で１点が最優秀作品として選ばれる。今回は１２人１２点のプレゼンテーションが行われた。

【ポスターコンペの様子】

尚受賞者は１人選ばれてその年のポスターとして印刷され開館式の当日に表彰される。人前で自己の作品の制作の意義、表現された内容、人に伝えるべき重要な部分などをポスターの表現を通して考を纏める場として大学生の資質向上に寄与している。

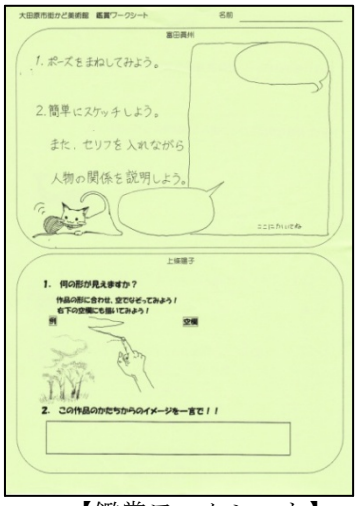
【採用されたポスター】

③搬出入･展示は大学生にとつて、容易く経験できない分野ではあるが作品をじかに手にすることが出来、作品の扱い方、会場効果の重要性を学ぶには絶好の機会である。彫刻、

インスタレーションなど扱うには技術が必要なことを体感する良い機会に恵まれた。

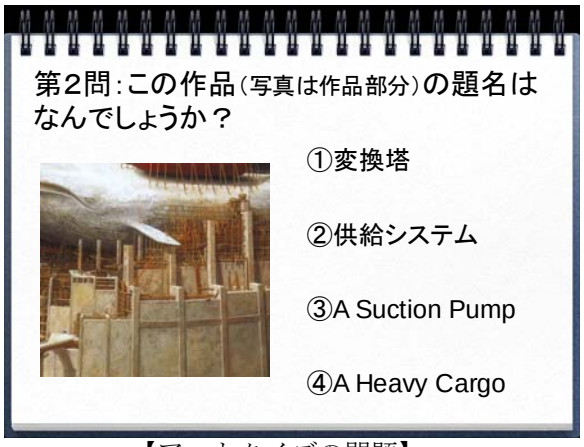
【展示風景】

④中学生との対話型鑑賞授業は大田原市立中学校の美術部４０名を対象に行われた。鑑賞補助として大学生１４名が加わり、ナビゲーターの市民ボランティア１，２名が加わり１班の構成人員は約１３，４名前後となる。（各班は同時に異なる経路で４つのメイン会場に出発して最終的には出発地点に戻る）４人の作品制作者は作品解説、質問に答えるために会場に待機して訪れる班から対応して行く。鑑賞中、大学生は中学生に言葉を掛け中学生の関心、興味を引き出すように努める。その時に使用する観賞用ワークシートは、美術教育分野の授業の中で作成された。作成を担当した２年、３年生で講演会を聴講している。その為、個々の作家の作品の把握は明確に持つており、的確な鑑賞ポイントが示されたワークシートが考案された。当日の活動時間中学生の能力を考慮して難解な記述は避け、それぞれの作品に見られる表現の特徴を包括的に鑑賞できる工夫がなされている。




【鑑賞ワークシート】

アートクイズの目的は鑑賞を振り返るためにある。鑑賞活動をワークシートで終了した時期の中学生よりも鑑賞活動の最後にゲーム感覚でアートクイズを実施された中学生の反応は明らかに良くなった。また、ストリートギャラリに展示された小品に関する問題も出したため先導する市民ボランティアの案内意識も強まり市民一体の感が高まった。具体的な形式は、学生間で考案された結果、問題数を８問設定し４択回答方式とした。内容も工夫され作品題名については作品の部分写真を使用し、作品の素材や技法に関するもの、作品のサイズに関するものなど斬新なアイデアが考案された。これらは事前に作家研究、講演会、自身の制作上などから得られた知識、情報を活用したものである。大学生が司会を楽しく進行し、効果的に最後を盛り上げた。設問と正答率で特徴的であったのが、作品部分と題名に関する問題の正解率は高かったが、作品の大きさに関する問題の正解は無かった。未だ詳細に検証する必要があるが作品の大きさに対しては客観的に見ることの難しさが示された。活動後は、大学生にも鑑賞者からの感想と鑑賞補助員としての感想を用紙に記入するように指示し、対話型鑑賞授業の纏めとした。そこには、自己の補助によって中学生が興味を示しながら鑑賞を進める姿に満足感を得られたこと、ワークシートやクイズの作成が鑑賞に役立たせることが出来た充実感が綴られていた。この様な経験は教員を目指す学生にとって大いに有意義であり、自信をつける結果に成った。




【アートクイズの問題】

【アートクイズの様子】

４．研究成果
街かど美術館と宇都宮大学美術教育講座は連携を通して、大学生の美術に対する関心、技術の向上、美術教師の育成に努めてきた。この連携において一番効果的である点は制作者と共に作品について研究、展示、鑑賞、鑑賞補助に関わることができる点である。本論で取り上げた大学カリキュラム内での活動はここ３年間で整ったものである。これにより大学生は自らの学びの重要性を学生自身が体感して自らの学びにフィードバックされ理解力、実技力が高まった。本年度、ポスター類、ワークシートの作成や対話型鑑賞補助に関わった３年生は、自主的に学内展示スペースでの発表、教員志望の学生向けへの積極的な参加が顕著に見られた。街かど美術館を通した一連の経験が影響していると確信している。自ら制作、企画したものを実際の展覧会で生かすことが出来るこの機会、鑑賞授業を通して得る事が出来た中学生の純粋な感性と活発な反応が直接的に大学生に寄与している物と考えられる。今後の課題としては、対話型鑑賞授業を中学生と共に経験した大学生が、美術教育の現場を意識しての更なるワークシートづくりやアートクイズの改良が必要となる。何処でも簡単に行えるものではない対話型美術鑑賞授業を学校教育における美術授業として想定し、評価をする観点をどのように扱うか今後の検討課題である。宇都宮大学美術教育講座のカリキュラムの特色といえる事は３年次までに美術、美術教育の素養を一様に見につけることが出来る。この様な地域プロジェクトとの連携は、全てに対応できる能力を必要とされる教育を養成するという教育学部のカリキュラム意義をより強化するに有効な取り組みであるといえる。又、街かど美術館を契機に積極的に近隣小、中学校への美術館系ボランティア（出張授業、校内展示、彫刻シンポジュゥム、ワークショップ）に大学生も参加をして好評を博している。今後これらの活動は個別で展開されるのではなく、各活動で得られた経験を他の活動へも結び付けていく分野ごとの連携を更に深めていく必要性がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
<u>株田昌彦</u>、大学美術カリキュラムにおける地域展覧会との連携―大田原市街かど美術館の実践から―、第４４回日本美術教育研究論集２０１１、査読有,巻（４４）、２０１１、１１１～１１８ページ

〔学会発表〕（計１件）
<u>株田昌彦</u>、大学美術カリキュラムにおける地域展覧会との連携―大田原市街かど美術館の実践から―、日本美術教育連合、２０１０年１０月２４日、武蔵野美術大学

６．研究組織
(1)研究代表者
日原　公大(HIHARA KODAI)
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：10134256

(2)研究分担者
田代　甚一郎(TASHIRO JINICHIRO)
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：00134255
（Ｈ２０年度まで分担者として参画）

山口　喜雄(YAMAGUCHI YOSIO)
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：90292573

梶原　良成(KAJIHARA YOSHINARI)
宇都宮大学・教育学部・教授
研究者番号：70334076

松島　さくら子(MATSUSHIMA SAKURAKO)
宇都宮大学・教育学部・准教授
研究者番号：60344909

株田　昌彦(KABUTA MASAHIKO)
宇都宮大学・教育学部・准教授
研究者番号：50515971